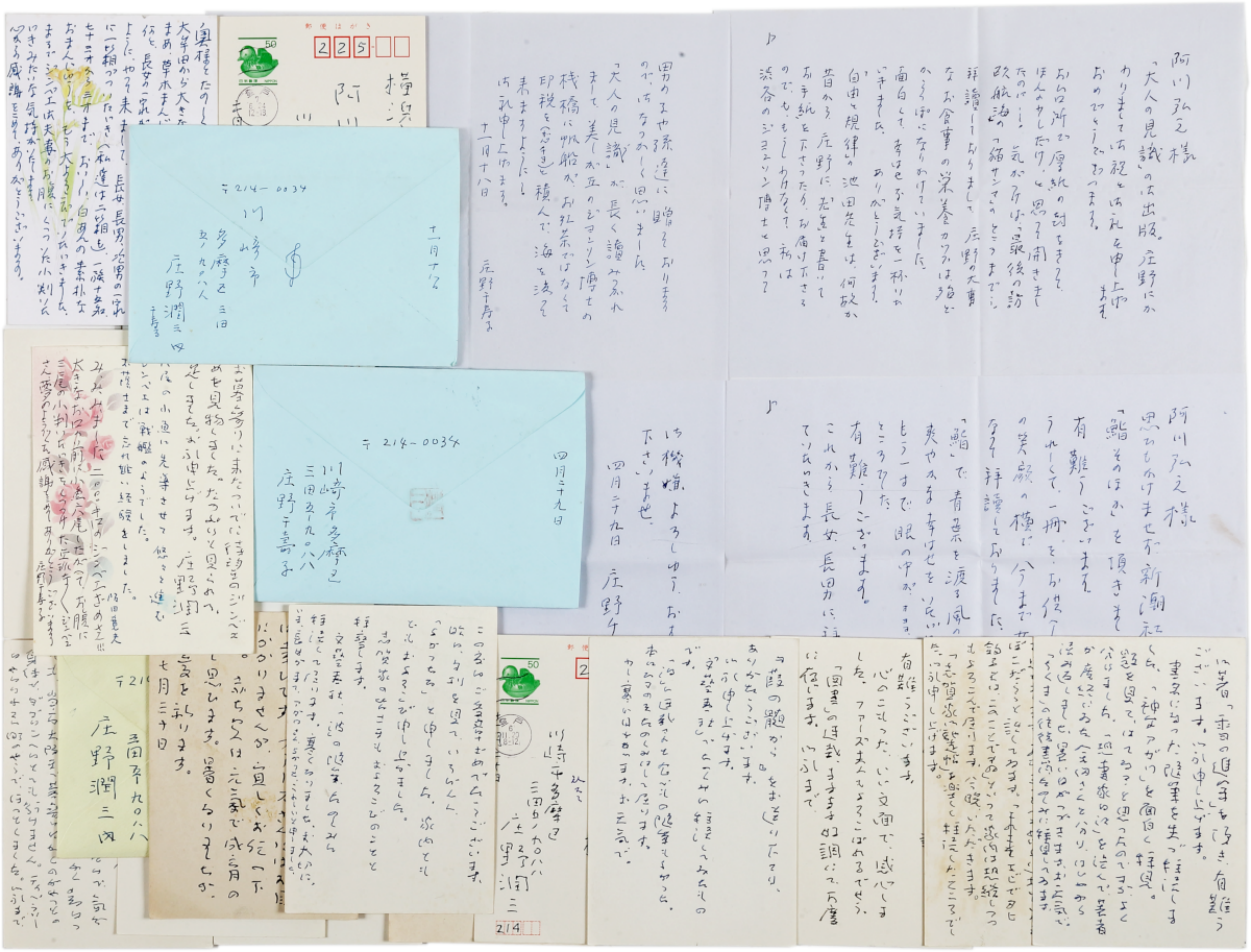

阿川弘之様

「大人の見識」のご出版。庄野にかわりましてお祝とお礼を申し上げます。

おめでとうございます。

お台所で厚紙の封をきって、ほんの少しだけ、と思って開きましたのに！ 気が付けば最後の「訪欧航海」の「縮サンマ」のところまで。

拝読しておりまして、庄野の大事なお食事の栄養カツが焦げそうになりかけていました。

面白くて、幸せな気持を一杯いただきました。ありがとうございます。

自由と規律の池田先生は、何故か昔から庄野に先生と書いてお手紙を下さったり、お届け下さるので、もうしわけなくて、私は淡谷のジョンソン博士と思って男の子や孫達に贈っておりますので、懐かしく思いました。

「大人の見識」が長く読みつがれまして、美しいお丘のジョンソン博士の桟橋に帆船が、お紅茶ではなくて印税を（忘れずに）積んで海を渡って来ますように！

お礼申し上げます。

十一月十八日

庄野千寿子

阿川弘之様

思いもかけませず新潮社

「鮨そのほか」を頂きまして

有難うございます。

うれしくて、一冊を、お借

の笑顔の横に、今まで

なく拝読しておりました。

「鮨」で青葉を渡る風の爽やかな幸せを

もう一すで眼の中が

ところでした。

有難うございます。

これから長女、長男に

て[illegible]きます。

お機嫌よろしゅう。お

下さいませ。

四月二十九日

庄野千

奥様をたのしく

大牟田から大きな

まあ、草木まんじ

何と、長女の一家が

ように、やって来まして、長女、長男、次男の一家に一箱ずついただき（私達は二箱も）、一族十五名。七十二才から三才まで、おいしい白あんの素朴なおまんじゅうを、もう大よろこびでいただきました。まるでジンベエ[illegible]夫妻のお腹にくっついた小判ざめみたいな気持がいたします。

心からの感謝をこめて、ありがとうございます。

郵便はがき

225

50 日本郵便 NIPPON

横浜

阿川

〒214-0034

川崎市

多摩区三田

五ノ九ノ八八

庄野潤三 内

千寿子

十一月十八日

お墓参りにまたついでに海遊館のジンベエ

めも見物してきました。たっぷりと見られへ、

足しました。お礼申上げます。

[illegible]の小魚に先導させて悠々と進む

ジンベエは戦艦のようでした。

お蔭さまで忘れ難い経験をしました。

庄野潤三

みんなみました 二日の午後のジンベエさめさん 阪田寛夫

大きなお口の前に小魚六尾したがえて、お腹に

三尾の小判ざめをくっつけた立派なジンベエ

さん、夢のようでした。感謝をこめてありがとうございます。

庄野千寿子

〒214-0034

川崎市多摩区

三田五-九-八八

庄野千寿子

四月二十九日

〒21

三田五ノ九ノ八八

庄野潤三 内

にかかりませんが、宜しくお伝え下さい。

赤ちゃんは元気で成育のことと思ひます。

[illegible]を祈ります。暑くなりますか。

七月三十日

このたびご受章おめでとうございます。

昨日、夕刊を見て、いちばん

「よかったね」と申しました。家内と

ともによろこびを申し上げました。

志賀家の皆さんもよろこびのことと

拝察します。

文藝春秋の随筆よかった。

暑くなりましたが、お大切に。

郵便

50

川崎市多摩区

三田五ノ九ノ八八

庄野潤三

214

「葭の髄から」をお送り下さり、

有難うございます。

お礼申し上げます。

「文藝春秋」で[illegible]

です。

[illegible]の随筆もよかった。

本は[illegible]して居ります。

暑い日がつづきますが、お元気で。

有難うございます。

心のこもった、いい文面で、感心しました。ファーズ夫人もよろこばれるでせう。

「回想」の連載、ますます好調にて万慶に存じます。

お礼まで

[illegible]「志賀直哉」を[illegible]

お礼申し上げます。

に着「雷の[illegible]」を頂き、有難うございます。お礼申し上げます。

書名になった随筆を先ず拝読しました、「神宮アガワ」を面白く拝見。

題を見てはてなと思ったのですが、よく分りました。

[illegible]